

## 巻 頭 言

### 『異文化経営研究』第18号発刊にあたって

2021年も引き続き、パンデミックの影響を大きく受けた年であった。会員の皆様やご家族がこの困難を乗り越えてご健勝であられるよう祈りつつ、この巻頭言をしたためている。

『異文化経営研究』(Transcultural Management Review)が継続して発行され、今回は第18号になることは誠にありがたい。多大なご尽力をいただいた執筆者や編集者をはじめ、関係者の皆さまに心より御礼を申し上げます。本号には、レフリーによる査読を経て選ばれた研究論文2篇、研究ノート1篇、ケーススタディ1篇に加えて、招聘論文1篇と研究大会の講演抄録2篇が掲載されている。投稿されたすべての方の努力と勇気を称えたい。

2021年も研究大会や研究会などの学会活動はオンラインとなったが、滞りなく行われ、知的研鑽の場が保たれたことは喜ばしい限りである。さらに、この間、異文化経営学会は新たな活動をはじめたので、改めてご紹介したい。

まずはじめはパーパスの作成である。パーパスにより、学会の存在意義を明らかにすることができ、これまで暗黙知であった高次元の目的が明文化された(次頁に掲載)。

次に、動画作成。これは日本経済学会連合の呼びかけに応じで行ったもので、20分の紹介動画を作成した。その中から5分のバージョンも作成し、ホームページに掲載している。

さらに、機能部会を設立したことである。これまで地域部会(九州、関西、中部、北陸)では、地域ごとの特性あふれる活動が行われていた。これを横軸とすれば、機能部会はいわば縦軸で、専門分野の部会である。機能という名称は英語ではファンクション(function)で、企業でも部門の意味で広く使われている。機能部会の第一号は、国際人的資源管理(IHRM)部会であり、HRMに特化した部会である。続いて、ダイバーシティ・マネジメントとコーポレートガバナンスを結び付けたダイバーシティ&ガバナンス(D&G)部会も発足した。両者は不可分であり、現在の日本にとって最重要課題のひとつであるとの認識による。こうした新たな活動が示すように、本学会は状況の変化に対応し、新たなページを開くことができるレジリアンスがあると証明されたのではないだろうか。

こうした活動は皆様のご理解とご支援があってはじめて可能となる。誠にありがたく、心より感謝申し上げます。これからも社会に役立つ学会の運営と発展に向けて、皆様とご一緒に歩んでまいりたい。どうか一層のご支援をお願い申し上げます。

2021年12月

異文化経営学会 会長

馬 越 恵 美 子